

高校生 I C T 2019 Conference

in 長野

人はなぜ SNS を使うのか？ ～改めて考える SNS の使い方～

開催報告書

2019年9月28日(土)10:00-17:00

【会場】： 安曇野市明科公民館 （長野県安曇野市明科中川手 6824 番地 1）

主催

長野県教育委員会

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会

（構成団体）

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2019年11月20日

目 次

1. 開催概要	2
2. 高校生 ICT Conference 2019 地域開催	4
3. 高校生 ICT Conference 2019 in 長野 開催概要.....	5
4. 主担当.....	10
5. 高校生 ICT Conference 2019 サミット.....	10
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	10
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	11

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2019</p> <p>テーマ： 人はなぜ SNS を使うのか？ ～改めて考える SNS の使い方～</p>
主催：	<p>長野県教育委員会</p> <p>高校生 ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ラック、グリー株式会社、アルプスシステムインテグレーション株式会社、株式会社サイバーエージェント、株式会社メディア開発綜研、株式会社インテグラル、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、ジョイズ株式会社、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan 株式会社、一般社団法人情報教育研究所
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2018 年度には、全国 18 拠点にて開催し、計 137 校 562 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>2011 年に高校生 ICT カンファレンスがスタートして 9 年目、第 1 回のテーマは「ネットとケータイの問題点」でした。9 年の時を経て、高校生のネット接続ツールは、</p>

	<p>ケータイからスマホへ変わり、Facebook、LINE、twitter や Instagram と次々と新しいツールが登場しながらも、本質が SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）でのコミュニケーションであることに変わりはありません。</p> <p>SNS を使った犯罪やネットいじめは引き続き続いており、不適切動画の投稿による炎上は、対象企業の事業継続を左右する社会問題となっています。</p> <p>このように、様々な問題を抱えつつも、SNS はどうして高校生をはじめ、多くのインターネット利用者を惹きつけるのでしょうか？</p> <p>SNS の魅力やその功罪について熱い議論を通じて、改めて SNS との付き合い方や使い方について考え、提言をまとめます。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2018 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） ・ 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階 TEL：03-3562-8850 FAX：03-3562-1180</p>
--	--

2. 高校生 ICT Conference 2019 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	2019年9月28日	内田洋行札幌ユビキタス協創広場 U-cala
帯広	2019年9月23日	十勝プラザ
宮城	2019年9月28日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2019年10月5日	米沢伝国の杜
茨城	2019年8月23日	茨城県教育研修センター
神奈川	2019年8月24日	岩崎学園
新潟	2019年8月20日	新潟コンピュータ専門学校
石川	2019年8月25日	金沢市リファーレ会議室
長野	2019年9月28日	安曇野市明科公民館
静岡	2019年9月29日	専門学校 静岡電子情報カレッジ 森下町キャンパス
愛知	2019年10月19日	名古屋女子大学
大阪	2019年9月1日	内田洋行大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2019年9月29日	帝塚山大学 奈良・学園前キャンパス
高知	2019年9月7日	オーテピア
福岡	2019年9月21日	LINE Fukuoka
佐賀	2019年10月13日	佐賀大学
長崎	2019年8月8日	諫早文化会館中ホール
大分	2019年8月25日	ホルトホール大分
鹿児島	2019年8月17日	鹿児島大学
サミット	2019年11月3日(祝)	東京ユビキタス協創広場 CANVAS (内田洋行)

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待予定。(サミット熟議のみ参加) ※2018年度実績：福井、沖縄

3. 高校生 ICT Conference 2019 in 長野 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 85 名の参加者を得て、「人はなぜ SNS を使うのか? ～改めて考える SNS の使い方～」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>《開会あいさつ》 (長野県教育委員会 心の支援課長 松村 明 氏) [要旨] 長野県教育委員会では、本大会を高校生インターネット適正利用推進事業の一つとして位置付け、5年前から参加してきました。参加校を中心に県内の多くの高校で、その成果が徐々に表れてきているように思います。今年も参加生徒が活発に熟議を交わし、県内に発信することにより、自らの課題に向き合い解決していくための力や態度を身に付けることを願っています。 (総務省信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 坪内 大 氏) 来賓としてあいさつをいただきました。</p> <p>《第一部：参加校 自己紹介》 最初に全参加校が、以下の事前課題について1分間で発表を行うとともに、学校紹介をしました。</p> <ul style="list-style-type: none">・ SNS とは何か、その光（メリット）と影（デメリット）について・ 人はなぜ SNS を使うのか、SNS の安全で適正な利用について・ インターネット・スマートフォンの利用に関して、学校（高校生）が実際に取り組んだこと <p>《第二部：事業者講演》 (Twitter Japan 株式会社 公共政策本部長 服部 聡 氏) 高校生が最も利用する SNS の一つである Twitter の利便性についてお話をいただきました。Twitter はとくに「今起きていること」の情報共有に長けているため、例えば、災害が起きた際には、現場にいる多くの人がそれぞれの状況や情報を発信することで行政や民間が発信する情報を補完することができるなど、賢く正しく利用すればその効用は大きいとお話がありました。 一方で、発信される情報や投稿のすべてが、正確で適切なものであるかどうかはわからないことから、安全面に関する企業努力はしているが、やはり利用者自身のリテラシーを高めることが重要であるとお話をいただきました。 参加者は Twitter をはじめとする SNS の特徴や利用方法について、改めて理解を深めるとともに、講演後の熟議の参考にすることができました。</p> <p>《第三部：自己紹介・アイスブレイク、Conference①、グループ発表》 長野県教育委員会、長野県の方などがファシリテーターとなり、8つのグループに分かれ、自己紹介やアイスブレイクを行った後、熟議を行いました。 午前のテーマは「SNS とは何か、その光（メリット）と影（デメリット）を考</p>
----	--

える」でした。参加生徒はメモや付箋紙を模造紙に貼付しながら意見を交換しました。各グループで生徒が中心となって進行し、熟議の内容を整理しました。

光（メリット）として「情報共有しやすい」「様々な情報や意見が得られる」「身近な人に言いたくないことも相談できる」「承認欲求が満たされる」など、影（デメリット）として「言葉によっては誤解が生じる」「拡散性・記録性が怖い」「長時間の使用で家族や友人との会話が減る」など、多くの意見が出されました。

昼食もグループごとにとり、熟議は円滑に進みました。

午後はテーマを「人はなぜSNSを使うのか、SNSの安全で適正な利用について考える」に展開し、短い時間内で活発に議論しました。SNSの功罪について考えた午前の内容を踏まえて、SNSをどのように利用するのが良いのかについて、様々な提案がなされました。

また、SNSの適正利用については、高校生から小・中学生へのメッセージも考えました。SNSは小・中学生にはまだ必要ないという考えから、大人からの強い規制を訴えるグループもあれば、小・中学生でも利用を促進できるようにという考えから、自制を促進することのほうが重要だと訴えるグループもありました。

各グループで模造紙に整理した内容は、ワールドカフェ方式（2ラウンド）で発表しました。

《第四部：Conference②、参加校発表》

再び学校ごとの席次に戻り、グループで話し合った内容（Conference①）を最大限活かしながら、テーマ「人はなぜSNSを使うのか？～改めて考えるSNSの使い方～」についてまとめ、学校別の発表準備（発表資料の作成、発表方法・発表者の調整、発表練習）をしました。その後、全参加校が4分ずつ提言をしました。発表資料は模造紙にまとめる形とし、それをiPadで撮影しスクリーンに投影しながら発表しました。

（各学校の発表要旨は以下の通り）発表順

【長野県松川高等学校】

高校生は暇つぶし、承認欲求、コミュニケーションのツールなどを理由に、SNS（LINE・Twitter・インスタなど）を利用しています。しかし、実際の学校では、スマホがらみの問題やトラブル（生徒への悪口や誹謗中傷の書き込み、スマホ依存）が多発したため、このままでは学校の先生にスマホを管理されてしまうのではないかと危機感が生徒間で生まれ、生徒会で先生方にストップをかけ、生徒会主体で「断スマ」（スマホを断つ期間を設ける）を実施したり、「松高スマホルール」を策定したりしました。このような生徒主体の取組を進めることが、SNSの適正利用につながるのではないか、という発表でした。

【長野県松本工業高等学校】

「速い」（リアルタイムで他人と会話ができる）、「広い」（世界中の人といつでもつながれる）、「簡単」（小さい子からお年寄りまで誰でも簡単に使える）とのSNSのメリットを強調し、「大人の考え方は古い～第5世代を生きる私たちのスマホ

の適正利用～」と銘打って、新しい時代に合わせたSNSの使い方を提案しました。しかし、大人の考えるようなデメリットもたくさんあるので、「送信前によく考える」ことが大事で、松本工業高校生として考える機会を与えるアプリケーションを製作したいとの発表でした。

【長野県松本美須ヶ丘高等学校】

人がSNSを使う理由を、「便利であること」（遠隔通信が可能な点や、一度に多数と連絡取れる）、「人とのつながりがうまれること」（価値観や情報に対するの共感を得られる）、「身近であること」（簡単に人とつながることができる）の3点に分けて説明しました。さらに、その入り口として、周囲の人間が「みんな使っている」ことが大いに影響しているとしました。SNSの価値はユーザー数の多さにあり、ユーザー数が減ればサービスは終了するためです。

SNSの適切な利用に関しては、「自分が発信する情報に個人情報が含まれていないか確認する」「周囲が利用しているからといった安易な考えから情報を流すのではなく、自己管理能力を高め、ルールや利用時間を自ら定める必要がある」「SNSの危険性をしっかりと知ることは当然必要である」との発表でした。

【長野県松本県ヶ丘高等学校】

現代文の授業『相手依存の自己規定』の中で、「日本人は他者の評価で自己を評価する傾向にある」と学んだことを紹介し、SNS上で簡単に「いいね」と他者評価としてしまうことは「無責任な評価」なのではないかと提案しました。

SNS上での他者評価の特徴として、「誰でも簡単に評価することができる」「本質的な良し悪しを評価しているわけではない」「受け取り側が面白いと感じるかどうかで評価している」ということが考えられるとし、他者の評価、特にSNS上においての他者の評価を自己評価として受け止めて行動することは良くない、他者評価によって自分自身の行動が変化することもよくない、と主張しました。「承認欲求」に焦点を当てた発表でした。

【長野県茅野高等学校】

SNSのメリットとデメリットとして、「自分の知りたい情報が見つかるが、偽情報が混ざっている可能性がある」「世界中の人とコミュニケーションが取れるが、悪い人とつながる可能性がある」「便利で自分のことを自由に表現できるが、依存し過ぎてしまう」を挙げ、メリットの裏にはデメリットがあることを指摘しました。そこで、改めて考えるSNSの使い方として、「正しい情報が見極める力」「相手の気持ちを考える力」「自分で自分を自制する力」が必要であると提言しました。

【長野県岡谷東高等学校】

「なぜSNSを使うのか？」テーマに対して「利便性がある」との結論から入り、利便性の具体を「情報収集の手段として」「承認欲求を満たすため」「娯楽のため」「連絡手段の一つとして」の4つに分類しました。その上で、「様々な意見や情報を得ることができる反面、言葉によっては誤解が生じる」などメリットとデメリット

トが表裏一体であることを指摘しました。そしてSNSを正しく使うために、「相手の立場に立って考える」「他人への誹謗中傷はしない」「個人情報の取り扱いに気をつける」の3つの提言をしました。

【長野県飯山高等学校】

「人はなぜ、SNSを使うのだろうか？」の問いに対し、①「流行」（安全かどうかの確認は必要だが）、②「連絡手段」（直接伝えるのが1番だが）、③「承認欲求」（SNSをすることによって周りの人に認めてもらえる）、④「情報収集」（情報がたくさんありすぎたり、いくつか調べて何が正しいのか見極めることが大事だが）、⑤「暇つぶし」の5点にまとめ、それぞれ次のように安全に使うための提言をした。①「自分の意志を持つ」、②「大事なことは直接伝える」、③「周囲の人のことも考える」、④「たくさんの視点から情報を得る」、⑤「フィルタリングをする」。寸劇風の工夫を凝らした発表でした。

【長野県明科高等学校】

まず、人がSNSを使う理由を2つ挙げました。一つ目は「情報を得るため」で、その背景としては、本やテレビといったメディアよりも情報量が多く、情報伝達速度が速い点を挙げました。さらに、ツールによっては話し言葉で書かれていることもわかりやすくて良いとしました。二つ目は「人とのつながり」で、学校での友人関係以外に国内外訪わず様々な人とつながることができるため、人はSNSを使うと主張しました。

SNSはその危険性を理解して適正に利用することが望ましいとしました。そのためには、個人情報をむやみに載せないことや、基礎知識を高めるために学校などでの講演が必要である、との発表でした。最後に、今回の熟議で得た考えを自分たちの生徒会活動で行っている「スマホ回収」の向上へとつなげること、基礎知識を高めるための講演活動や話し合いの場を作ること、を目標として掲げました。

【長野県北部高等学校】

「なぜSNSを使うのか」については、「メリットが多いから」と明言し、①「情報を拡散するのが速い」、②「人に直接言えないことでも文字なら言うことができる」との利点を挙げました。しかし、メリットはデメリットにもなるとして、①に対しては「一度投稿したものは取り返せない」、②に対しては「簡単に悪口を書いちゃう」「送ったメッセージを違う意味で捉えてしまう」といった欠点も指摘しました。そこでSNSの適切な利用について、「絵文字などを使って相手が誤解をしないような対処をとる」とか「位置情報などの情報を悪用されないように注意する」などと、SNS利用の留意点について発表しました。

【長野県高遠高等学校】

SNSのメリットには「情報共有」「いろいろな人とつながれる」「連絡がとりやすい」「自分を表現しやすい」「情報入手が簡単」「情報をリアルに知ることができる」「自分の意見を言いやすい」があり、デメリットには「拡散したら消えない」「直

接のコミュニケーションが減る」「意思が正しく伝わらない」「炎上」「依存」「個人情報流出」との発表でした。デメリットの解決策として、「投稿前の確認」「機能を知りルールを作る」「鍵アカ、むやみに写真をあげない」「見るだけにする」「責任を持った行動をする」との提言をしました。

【長野県松本深志高等学校】

「単一人にメッセージを伝えるのはSNSではない」として、SNSを肯定的に捉え積極的な利用を呼び掛ける形で発表が始まりました。人間が欲求を満たすためには社会（世界）が必要で、社会（世界）をつくるのは人間の本能です。現代では「現実世界」に加えて、電子の発見により「電子世界」が形成され、両者が併存しています。「現実社会」と「電子世界」では、「肉体が存在しているかどうか」「質」「スピード」と決定的な違いもありますが、「やっていること」「意識すること」「利用することや利用方法」など、本質的には同じです。「電子世界」で正しくSNSを利用するために大切なことは何か、を考えさせられる発表でした。

《講評》

（長野大学 企業情報学部 教授 田中 法博氏）

[要旨] 高校生の皆さんにとって、SNSの光と影について深く考え合う中で、多くの気づきがあった一日ではなかったでしょうか。その上で行った後半のSNS適正利用に関する熟議ではたくさんの具体的なアイデアが出てきました。時間の関係でグループや学校ごとの講評ができないのが残念ですが、それぞれ個人的に興味深い内容だったと思います。私たち大人も多くのことを学ばせてもらいました。

本大会の成果を本日限りのイベントで終わらせることなく、ぜひ学校に戻ってからさらなる話し合いや取組につなげ、広く発信していただきたいと思います。

《閉会式、サミット代表発表》

（サミット代表 長野県松本県ヶ丘高等学校）

長野県代表として、本日の成果を全国に伝えていく決意が語られました。

参加校：

長野県岡谷東高等学校
長野県松本県ヶ丘高等学校
長野県松本美須ヶ丘高等学校
長野県高遠高等学校
長野県北部高等学校
長野県松川東高等学校
長野県松本深志高等学校
長野県明科高等学校
長野県茅野高等学校
長野県飯山高等学校
長野県松本工業高等学校
(順不同 11校)

日時：	2019年9月28日（土） 10:00-17:00
場所：	安曇野市明科公民館（長野県安曇野市明科中川手 6824 番地 1）
参加人数：	熟議参加生徒 45人 見学者・関係者 40人（教員・教育関係者・その他） 合計：85人

4. 主担当

安心ネットづくり促進協議会	事務局
長野県	会場、什器備品手配 飲食手配、庶務
各団体、事業者等	講演、ノベルティ、資料提供 他

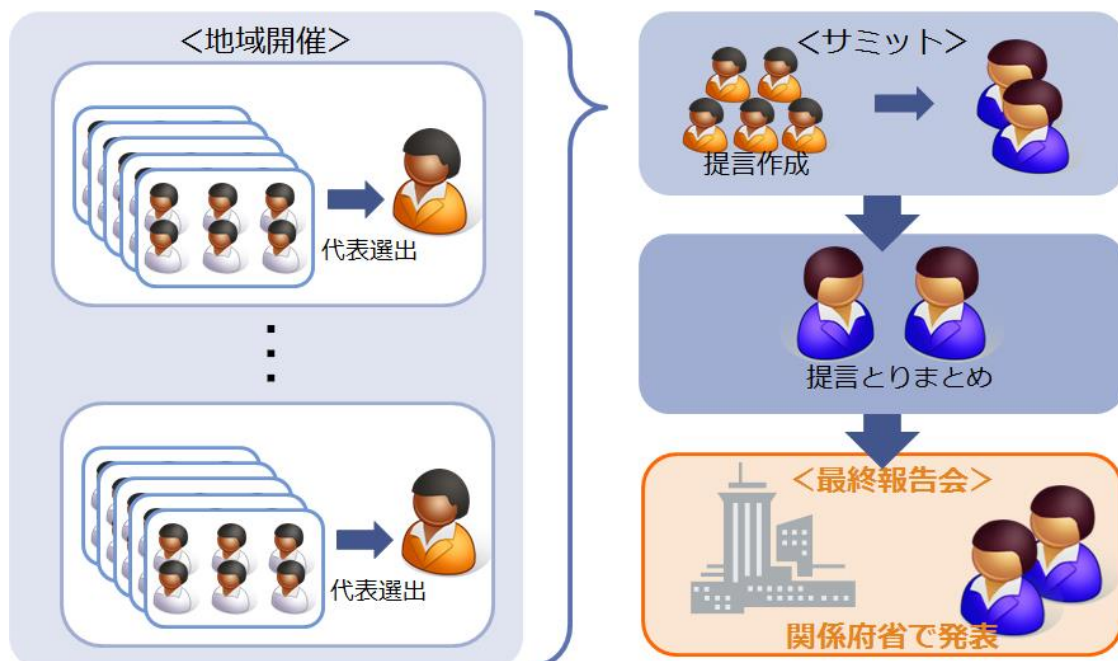
5. 高校生 ICT Conference 2019 サミット

高校生 ICT Conference 2019 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 熟議終了後、参加生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2019 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを図る。



7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2019 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2019 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上